

MOOC「Steps in Japanese for Beginners」の コース開講・運営に関する報告

木下 直子・濱川 祐紀代・大熊 伊宗・遠藤 健

要旨

本稿は、2019年11月よりMOOCs（Massive Open Online Courses; 大規模公開オンライン講座）のedXに提供してきた初級日本語コース「Steps in Japanese for Beginners」（以下、SJB）の開講および運営に関する報告をするとともに、オンラインコース・教材を開発し、運営する際の留意点、改善点を検討することを目的としている。

SJBのシリーズ1は、2020年4月から受講者自身が自由に進度を決められるセルフペース方式で再開講された。本稿ではコース登録者49,774名を対象に行った、受講開始前と受講終了後のアンケート調査の中から、①登録者数、②年齢層、③学歴、④専門分野、⑤受講者の国・地域、⑥日本語使用頻度、⑦学習動機、⑧コースで達成したいこと、⑨平均学習時間、⑩学習環境、⑪コース全体の満足度、⑫学習に役立ったコンテンツ、⑬コンテンツの質と改善点について得られた回答をもとに、結果を報告する。

キーワード：MOOCs, edX, 日本語, 初級, オンラインコース

1. 背景・目的

本稿の目的は、2019年11月よりMOOCs（Massive Open Online Courses; 大規模公開オンライン講座）のプラットフォームのひとつであるedXに提供してきたSJBの開講および運営に関する報告をするとともに、オンラインコース・教材を開発し、運営する際の留意点、改善点を検討することである。

日本語教育研究センター（以下、CJL）は、早稲田大学の日本語教育を一元的に担っている。しかし、本庄、北九州、西早稲田、所沢キャンパスなどの留学生に対する日本語教育の機会が十分に確保できていなかったため、2014年度からオンデマンド型と対面の同時双方向型を組み合わせた日本語コースを開発した。その際、LiveOnというWeb会議システムを対面授業に用いたが、同時にシステムに入れる人数には限りがあり、数名しか受講できないという問題があった。また、教材のコンテンツの著作権にも課題を抱えていた。

そこで、2018年度よりWasedaXの予算を得て開発したのが、SJBシリーズである。本コンテンツは、edXで全世界の日本語学習者に公開され、活用されているだけでなく、本学でも2019年9月より理工学術院で、そして今年度はCJLのコースで活用されている。

2. SJB 概要

第2章では、MOOCsに提供したコンテンツについて簡単に紹介するとともに、開講スケジュール、運営体制について説明する。コンテンツの詳細は、木下ほか（2019）、佐野

ほか（2019）、木下（2020）を参照されたい。コンテンツの開発にあたり、edXで開講されている既存の言語学習コースを調べ、どのように動画が扱われているのかを参考にした。その内容については、大熊ほか（2019）で報告している。

2-1. コンテンツの種類・内容

SJBには、3つのシリーズがある。1つのシリーズは3つのコース（Part1～Part3）からなり、各コース（Part）は、4つの課で構成されている。

表1は、SJB全体のコンテンツを動画、クイズ、その他に分けて示したものである。各課には、語彙練習、文法・文型練習、会話練習用の動画がそれぞれ3つある。所要時間は5分程度を目指して作成した。動画で学習した内容について理解度、到達度を自動採点で確認できるよう語彙クイズ、文法・文型クイズ、会話クイズを作成している。

この他に Word cloud があるが、導入として各課のトピックについてどのような知識や経験があるのかを問い、それについて入力するものである。入力した表現は、テキストマイニングにより分析され、回答の多い表現ほど、大きく表示される。これにより、同じコースの他の受講者の存在を意識することのできるコンテンツである。

このほか、補助コンテンツとして、かな練習用の動画、日本語とはどのような言語なのかを説明したテキスト About Japanese Language、そして他者と情報交換、意見交換をしたり、質問をすることのできる Discussion を設けた。受講者には、無料で学習する Audit learner のほか、評価対象コンテンツへのアクセス権・修了証受領資格のある Verified learner がいる。後者のための修了要件にかかわるコンテンツが Final Task である。

表1 SJBのコンテンツ

	動画	クイズ	その他
各課のコンテンツ	語彙練習×3 文法・文型練習×3 会話練習×3	語彙クイズ+ Quizlet 文法・文型クイズ 会話クイズ	Word cloud
補助コンテンツ	かな練習	—	About Japanese Language Discussion
課題	—	Final Task	—

2-2. SJB 開講スケジュール

SJBの開講スケジュールを表2に示す。配信タイプは、コンテンツの公開日時や課題の期日を教員側が定める Instructor-paced と、開講中であればいつでもコンテンツにアクセス可能で受講者側が自分のペースで学ぶ Self-paced がある。SJB1 Part1～Part3は、2019年11月から Instructor-paced で初開講し、2020年4月から Self-paced で再開講した。本稿では、Self-paced で再開講した SJB1 Part1 を調査対象とする。

表 2 開講スケジュール

講座名	該当課	配信タイプ	期間
SJB1 Part1	Lesson 1 ～ 4	Instructor-paced	2019/11/7 ～ 2019/12/17
SJB1 Part2	Lesson 5 ～ 8	Instructor-paced	2020/1/9 ～ 2020/2/17
SJB1 Part3	Lesson 9 ～ 12	Instructor-paced	2020/3/5 ～ 2020/4/23
SJB1 Part1	Lesson 1 ～ 4	Self-paced	2020/4/1 ～ 2020/8/31
SJB1 Part2	Lesson 5 ～ 8	Self-paced	2020/4/1 ～ 2020/8/31
SJB1 Part3	Lesson 9 ～ 12	Self-paced	2020/4/1 ～ 2020/8/31
SJB2 Part1	Lesson 13 ～ 16	Instructor-paced	2020/5/7 ～ 2020/8/31
SJB2 Part2	Lesson 17 ～ 20	Instructor-paced	2020/7/2 ～ 2020/8/31
SJB2 Part3	Lesson 21 ～ 24	Instructor-paced	2020/9/3 ～ 2020/10/31

2-3. SJB 運営体制

SJB1 Part1 (Self-paced) の運営は、教員 2 名、専属助手（以下、助手）1 名で行い、さらに TA 3 名を雇用した。助手は、日本語教育学の修士課程を修了し、演劇映像に関する専門知識を持つ。TA は日本語教育学の修士・博士課程の大学院生である。

SJB1 Part1 (Self-paced) での業務内容と役割分担を表 3 に示す。コンテンツの制作・開発は、教員と助手が行った (①)。コンテンツの誤字脱字のチェックを教員・TA が、修正を助手が行った (②)。開講前の edX のページ設定や、開講中のバグ等の対応は助手が行った (③)。開講中の Discussion への英語対応は TA が行った (④)。Final Task は、課題に合わせたテキスト／音声／映像ファイルを受講者に Dropbox に提出してもらった。開講期間中、1 か月あたり 100 件ほどの提出があった。提出されたファイルは、edX の Username と紐づけた上で (⑤)、テキスト／音声／映像によりフィードバックを作成し (⑥)、メールで各受講者に送付した (⑤)。コース修了者の中で希望者にはノベルティを送付した (⑦)。

表 3 SJB1-1 (Self-Paced) における業務内容と役割分担

	教員 2 名	助手	TA 3 名
①コンテンツ制作・開発	○	○	×
②コンテンツチェック・管理	○	○	○
③ edX ページの管理	×	○	×
④ Discussion への対応	×	×	○
⑤ Final Task の回収／整理・送付	×	○	×
⑥ Final Task のフィードバック作成	○	×	○
⑦ノベルティ制作・送付	○	○	×

3. 調査概要

SJB シリーズでは、コース内容に関するアンケート調査を、SJB の受講開始前と受講終了後に edX コース内で無料オンラインアンケートツール「SurveyMonkey」を用いて行っている。回答は任意である。

今回は、SJB1 Part1 (Self-paced) に焦点を当て、8月4日の時点で得られた受講者49,774名のうち、表4に示す回答について分析した。

表4 調査回答者の内訳

	総回答者数	回答者数	
		Audit Learner	Verified Learner
Pre-course Survey	8,229	7,322	907
Post-course Survey	875	557	318

次章では、受講開始前・受講終了後に分け、記述統計・自由記述回答を整理し、調査結果を報告する。

4. 調査結果

2020年8月4日時点で回収できた受講開始前のアンケート調査から履修登録者の属性や動機などを述べ、受講終了後のアンケート調査から履修登録者の学習環境やコースの満足度などについて述べる。

4-1. アンケート調査（受講開始前）

前章で示した受講開始前のアンケート調査結果によると、履修登録者の多く（91.6%）が40歳以下であり、大卒が約半数を占める（表5・6）。専門分野はEngineeringが多い（17.5%）（表7）。国・地域は174か国にわたり、タイ（20%）、アメリカ（17%）、フィリピン（7%）の順に多かった。SJBを知ったきっかけは、edX web サイト（63.5%）、Facebook（16.6%）、他者からの推薦（13.9%）などであった。受講者の日本語学習歴は1年以下が多く（約86.7%）、受講者の半数以上（約58.0%）が日本語を話す機会がないと答えている（表8・9）。さらに、履修動機としては、「日本語・日本・日本文化」への興味関心から登録した人が多く（9割以上）、「新しい学習方法」への期待も窺えた（表10）。本コースで「楽しみたい」と思っており、実生活での日本語使用を期待する人も多数見られた（表11）。

表5 年齢

年齢	割合
25歳以下	57.3%
26歳～40歳	34.3%
41歳以上	8.4%

表6 学歴

学歴	割合
高卒以下	34.0%
大卒	47.4%
大学院卒	15.8%
その他	2.8%

表 7 専門分野

専門分野	割合
Engineering	17.5%
Basic knowledge, skills, and communication abilities	17.0%
Social Sciences	9.4%
Humanities	8.9%
Education	7.9%
Health	7.2%
Natural Sciences	6.7%
Services	3.2%
Agriculture	0.8%
Not applicable	21.3%

表 8 日本語学習歴

期間	割合
1 年以下	86.7%
1-2 年	7.7%
2-3 年	2.2%
3-4 年	1.1%
4-5 年	0.6%
5 年以上	1.5%

表 9 日本語使用頻度

頻度	割合
ほぼ毎日	8.6%
週に 1 度	10.3%
月に 1 度	8.9%
年に 1 度	14.3%
なし	58.0%

表 10 学習動機（上位 3 位）

回答	割合
日本語に興味・関心がある	97.2%
日本と日本文化に興味・関心がある	95.8%
新しい方法で学習できるといった	83.3%

表 11 コースで達成したいこと（上位 3 位）

回答	割合
自分自身で楽しむ	95.1%
好奇心を満たす	87.4%
実生活で知識を応用する	87.3%

* 表 10・11：複数選択可。5 段階評定。割合は「strongly agree」と「agree」の合計。

4-2. アンケート調査（受講終了後）

SJB1 Part1（Self-paced）受講終了後に行ったアンケート調査の回答から、Audit Learner の 98.2%、Verified Learner の 99.1% が自宅で SJB1 Part1（Self-paced）を受講しており、その際には、両者ともに 8 割以上がデバイスとして PC を使用していることが明らかになった。また、Audit Learner の 97.9%、Verified Learner の 98.4% が、SJB のコース全体に対して満足していると答え、9 割以上が次のコースも受講すると回答した。つぎに、コンテンツ・学習リソースの質、コースの課題について報告する。

4-2-1. コンテンツ・学習リソースの質

表 12 は、SJB のコンテンツが登録者の日本語学習にどの程度役立ったかについて 5 段階評定で得た回答の平均値を示したものである（5 が Excellent、1 が Poor）。この結果が

ら、3種類の動画（会話練習、文法・文型練習、語彙練習）のコンテンツの貢献度は高かったことがわかる（4.4-4.5）。クイズは、Audit Learnerの回答の平均が2.6だが、Audit Learnerが受けられるクイズが限定的であったため、低い数値になったと予想される。Quizlet, Word Cloud, Discussionについても数値が低い、これら3点のコンテンツは、いわば、コースのオプションとして設けているものであり、コンテンツを使用しなかったこと、積極的にメインコースに組み込み、活用を促すようにしかけてこなかったこと等が数値の低い主な要因として考えられる。参考までに、Audit learnerの未使用率をあげると、Quizletは16.2%、Word Cloud 24.0%、Discussion 36.5%であった。

表12 学習に役立ったコンテンツ

	Audit	Verified
会話練習	4.5	4.5
文法・文型練習	4.4	4.4
語彙練習	4.5	4.4
クイズ	2.6	3.8
Quizlet	3.4	3.7
Word Cloud	2.7	3.2
Discussion	2.2	2.9

表13 学習リソースの質

	Audit	Verified
イラスト	4.4	4.4
音質	4.5	4.4
画質	4.5	4.5
会話動画	4.5	4.5
TA・インストラクターの対応	2.0	3.7

表13は、学習リソースの質について得た回答をまとめたものである。結果は、おおむね4.4ないし4.5であり、質に大きな問題は見られないと判断できる。ただし、TA・インストラクターの対応については、Audit Learnerの平均値が2.0と低い。内訳をみると、51.9%が活用しなかったという回答しており、その影響が否めない。

4-2-2. SJBの課題に関するコメント

自由記述では多くのコメントを得た。その多くは、ねぎらいの言葉や肯定的な意見で、日本に行く際には早稲田大学に行きたいというコメントもあった。課題に関する回答の内容は、Audit LearnerについてはAudit Learnerにもクイズの機会がほしいという意見が複数あったほかは、Verified Learnerの内容と大きな違いがなかったため、全体的に多くコメントをいただいた主な点について報告する。

1) ひらがな・カタカナの学習機会を増やす

文字の習得には、一定の時間を要するため、必要な学習者だけが学べるよう、補助コンテンツとして提供している（木下2020）。ただ、文字習得のために、動画の数を増やしたり、書く機会を設けてほしい、覚え方のヒントを望むコメントがあった。

- ・ It is hard to memorize the Hiragana and Katakana.
- ・ I would say much more hiragana and katakana practice.

2) 文法説明の動画を見直す

About Japanese Language では、日本語の基本的な文字と文の構造について扱っているが、SJB 全体は文法・文型を積み上げる構造シラバスではない。英語学位プログラムに入学した留学生がキャンパスライフを送る際にどのような日本語が求められるかという視点から場面・機能を考え、それに最低限必要となる文法を扱ったシラバスでデザインしている。したがって、中には一般的に初級の文法・文型でないものもチャックとして覚えて使う形で取り入れたものもある。そのため、必ずしも文法・文型が体系的に扱えていないところがある。本コンテンツを活用して学内で展開している対面授業では、テキストや Worksheet を作成して補っているが、edX のコンテンツではテキストや Worksheet を公開しておらず、課題が残されている。

- ・ Since grammar can be complicated, I wish there were more explanation videos for grammar.
- ・ More example sentences when teaching grammar would be even better.
- ・ Lack of exercises to practice the grammar.

3) 各課のまとめを設ける

各課の最後に、語彙や文法のまとめを設けたり、ハンドアウトの提供を望む声があった。

- ・ Having a summary after each lesson would make it perfect.
- ・ Overall it is very well planned out. But having a summary list of all the noun, grammar, particle and vocab at the end of each lessons will make it perfect.
- ・ it'll be good if there are some handouts.
- ・ Detailed notes with vocabulary, grammar etc. I had to take snapshots of video materials.

4) 発音を確認する機会を設ける

発音に対する不安のコメントも複数見られた。Verified Learner には Part2 の最終課題として音声ファイルの提出が求められ、フィードバックを返しているが、その多くは、日本に来る留学生の発音の水準とは大きく異なっている。中には何を話しているのかがほとんどわからないケースもあり、発音に関するインプットの量を増やす、アウトプットの機会を増やすなど、何らかの対応が求められる。

- ・ Not sure if my pronunciation is correct or not as there's not test/ review about it.
- ・ pronunciation checking; I don't know if I pronounce some word in the right way.
- ・ I am not sure if my pronunciations are correct.

5) 会話の機会を検討する

実際に日本人と話す機会がほしいという声が複数あった。

- ・ There was no face to face conversations to practice speaking.
- ・ No opportunity to have face to face conversations.

5. まとめと今後の課題

本稿では、MOOCs に提供してきた初級日本語コース SJB の開講および運営に関する報告をするとともに、オンラインコース・教材を開発し、運営する際の留意点、改善点を検討することを目的とした。

コース登録者 49,774 名を対象に行った、受講開始前と受講終了後の受講前のアンケート調査から得られた回答の結果数 8,229、受講後のアンケート調査回答数 Audit Learner 557+Verified Learner 318 から、SJB がかなり多くの日本語学習者の日本語学習に貢献しており、よい評価を得ていることがわかった。また、コースの主な課題としては、1) ひらがな・カタカナの学習機会を増やす、2) 文法説明の動画を見直す、3) 各課のまとめを設ける、4) 発音を確認する機会を設ける、5) 会話の機会を検討する、の 5 点が挙げられる。

今後、シリーズ 2 につづき、シリーズ 3 の開講を行っていく予定であるが、上記の点についてできるだけ改善をはかり、国内外の日本語学習者にとって有用な日本語教育の機会を提供していきたい。

参考文献

- 大熊伊宗・木下直子・佐野香織・毛利貴美 (2019) 「edX の「言語学習コース」における動画コンテンツの役割」 *8th International Conference on Computer Assisted Systems For Teaching & Learning Japanese Proceedings*, 239-242.
- 木下直子 (2020) 「学習効果を高めるブレンデッド・ラーニングの導入を目指して—日本語初級 e-learning 教材 “Steps in Japanese for Beginners” の開発—」『早稲田日本語教育実践研究』8. 5-12.
- 木下直子・毛利貴美・佐野香織・大熊伊宗 (2019) 「MOOCs 日本語初級オンライン講座「Steps in Japanese for Beginners」の開発」 *8th International Conference on Computer Assisted Systems For Teaching & Learning Japanese Proceedings*, 152-155.
- 佐野香織・木下直子・毛利貴美・大熊伊宗 (2019) 「MOOCs における日本語初級オンライン講座で学習者は日本語をどのように学ぶのか—継続性の観点から—」 *8th International Conference on Computer Assisted Systems For Teaching & Learning Japanese Proceedings*, 243-246.

(きのした なおこ, 早稲田大学日本語教育研究センター)
 (はまかわ ゆきよ, 早稲田大学日本語教育研究センター)
 (おおくま ただむね, 早稲田大学日本語教育研究センター)
 (えんどう たけし, 早稲田大学大学総合研究センター)